

青梅総支部再生プラン（案）

令和6年6月30日

自由民主党青梅総支部再生プロジェクトチーム

< 目 次 >

1. はじめに	2
2. 組織の改革 —あらゆる場所で、あらゆる人に活躍の場を—	2
（1）総支部役員のリーダーシップの発揮	2
（2）支会毎の「ブロック」の創設	3
（3）地区委員会役員の補充・強化（ブロック主導）	4
（4）党員の拡大	4
（5）準党員制度の活用	4
（6）市議会議員団の参画の強化	6
（7）女性部役員の補充・強化	6
（8）青年部役員の補充・強化	6
（9）広報委員会の強化・再起動	6
（10）渉外委員会の強化・再起動	6
3. 活動の再建 —党勢拡大と再結束を—	7
（1）総支部の活動の充実	7
（2）地区委員会の活動の充実	7
（3）女性部の活動の充実・部員の拡大	7
（4）青年部の活動の充実・部員の拡大	7
（5）無党派層や若年層への浸透	8
（6）企業・団体への浸透	8
（7）市議会議員団のリーダーシップの発揮	8
4. 選挙における勝利を目指して —都議会議員・市長の奪還を—	9
（1）当面の目標	9
（2）立候補予定者の早急な確定と政治活動の支援	9
（3）組織の改革、活動の再建の徹底	9
5. 不断の反省と改革 —実効性の担保と、更なる向上のために—	10

1. はじめに

いま、青梅総支部は岐路に立たされている。地域党員数は我が党が政権を奪還した平成24年から3割減少。組織の弱体化、党員の高齢化等にも直面し、活動量は如実に低下している。平成29年と令和3年の東京都議会議員選挙、令和5年の青梅市長選挙における惨敗は、必然の結果であったと言わざるを得ない。

このような結果を招いた組織運営・選挙対策について、総支部長をはじめとする支部役員の責任は、決して軽いものではない。しかしながら、総支部の力強い再生のためには、役員や候補者といった個人に責めを負わせるのではなく、個々人の力を十全に発揮するための体制の革新、帰属意識と求心力を高めるための活動の再建こそが必要である。

青梅総支部は、「私たちの青梅市をより良くする」という希望の下、多くの党員・関係者の無償の奉仕に支えられて誕生し、活動を継続してきた。総支部の再生にあたり前提となるのは、いま一度、全ての党員に当事者意識を持って頂き、気持ちを一つにすることである。私たちが先人から受け継いだ青梅総支部を、私たちの手で守り、育て、未来へと引き継いでいく。そのために一人ひとりが、「できない理由」を探すのではなく、「何ができるか」を考える。前向きな姿勢を貫いていきたい。一方で、そのような意識は押し付けや同調圧力からは決して生まれないものである。党員が心から愛着を持つことのできる魅力ある青梅総支部を実現し、素晴らしい青梅市を作っていかななくてはならない。

かかる認識の下、青梅総支部再生のための方策を、以下の通り提言する。

2. 組織の改革 ―あらゆる場所で、あらゆる人に活躍の場を―

青梅総支部を支えるのは、「人」にほかならない。しかし、党員の減少や高齢化もあり、一部の方が「孤軍奮闘」するような状況が生じてしまっている。

目指すべきは、広い裾野と厚い中心を兼ね備えた組織である。意欲のある方に広く参画して頂ける良い意味での敷居の低さと、総支部や地区委員会の運営をお任せできる人材の層の厚さを実現したい。

(1) 総支部役員のリーダーシップの発揮

総支部の主催による活動だけでなく、地区委員会等の行う活動についても、

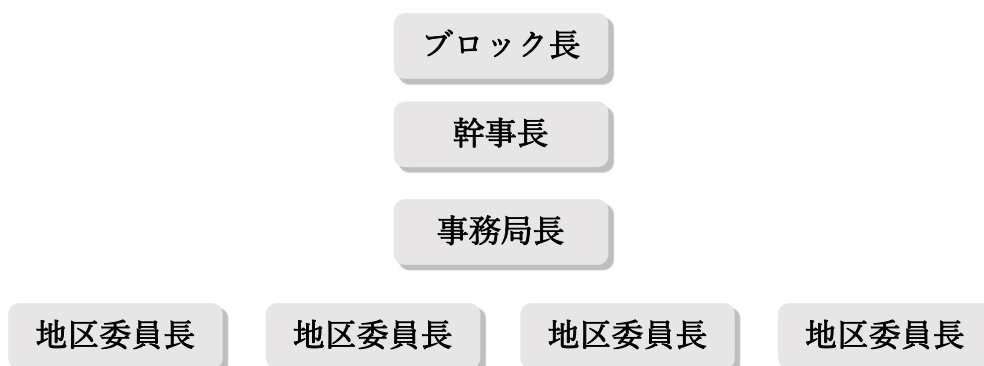
総支部役員がリーダーシップを発揮することが望まれる。各役員は、担当する活動について、地区委員長や関係者の相談に乗り、必要があれば自ら行動を起こし、目標の実現に努めていくべきである。

	組織の再生	活動の再建
支部長	役員等との意思疎通の強化 国政・都政・市政の連携強化	ブロック等からの意見の集約 率先した成果や情報の発信
幹事長	支会毎の「ブロック」の創設 地区委員会空白地域の解消 地区委員会役員の補充・強化 市民と総支部の繋がりへの検討 党員の拡大 女性部・青年部の体制拡充	総支部活動の充実
事務局長	幹事長の補佐	幹事長の補佐
政調会長	広報委員会の体制拡充	無党派層や若年層への浸透
総務会長	渉外委員会の体制拡充	企業・団体への浸透

【総支部役員の役割分担】

（２）支会毎の「ブロック」の創設

地区委員会空白地域の解消を進め、担い手不足に悩む地区委員会の活動等を積極的に支えていくため、支会毎に第１から第１１までの「ブロック」を創設する。活動の実効性を高めるため、市議会議員はブロック役員に就任する。



【ブロックの体制】

（３）地区委員会役員の補充・強化（ブロック主導）

各ブロック役員は、傘下の地区委員長へのヒアリングを実施する。党员減少、役員のみ手不足、活動量の低下など、各地区の悩みやニーズをきめ細かく聴き取り、対応に伴走する。まずは、各地区委員会に最低５名程度の役員を置くことを目指す。

（４）党员の拡大

党员の減少に歯止めをかけ、令和６年党员数１,０００人を目指す。^１令和７年以降も、積極的な党员の拡大に努める。

特に、地区委員会空白地域については、支会毎に創設するブロックの役員により地区委員会の創設・再建を進める。他の各地区委員会についても、ブロック役員などとも緊密に連携の上、地道な声かけを行っていく。

（５）準党员制度の活用

老若男女を問わず、一層幅広い人材を総支部に取り込んでいくため、準党员制度の活用も図っていく。党员の裾野を広げるため、新たに自民党に関わる若年層などには、「サポーター募集」等の親しみやすいキャッチフレーズで、準党员への加入を呼びかける。

^１ 党员数の推移：２０１２年 １,３２２人 ⇒ ２０１３年 １,０９７人 ⇒ ２０１４年 １,１４７人 ⇒ ２０１５年 １,１８６人 ⇒ ２０１６年 １,１６１人 ⇒ ２０１７年 １,１３８人 ⇒ ２０１８年 １,１３５人 ⇒ ２０１９年 １,１３３人 ⇒ ２０２０年 １,２２４人 ⇒ ２０２１年 １,０３２人 ⇒ ２０２２年 １,０７０人 ⇒ ２０２３年 ９４１人。

【各地区党員数、地区委員会空白地域の現状】 ※令和5年末現在

ブロック	地区名	一般	家族	合計	ブロック	地区名	一般	家族	合計
第 1	勝 沼	18	10	28	第 4	畑 中 ²	10	0	10
	西分町	空白地域				和 田	2	0	2
	住 江	3	—	3		下 郷	17	0	17
	本 町	空白地域				中 郷	41	6	47
	仲 町	空白地域				上 郷	24	10	34
	上 町	空白地域				柚 木	28	6	34
	森 下 ³	4	—	4	第 5	二俣尾	22	2	24
	裏宿町	空白地域				三田西部 ⁴	52	10	62
	天ヶ瀬	8	—	8	第 6	富 岡	3	1	4
	滝ノ上町	空白地域				小曾木	空白地域		
	大柳町	空白地域				黒 沢	7	1	8
	日向和田	空白地域			第 7	成 木	22	11	33
第 2	駒 木	5	1	6	第 8	東青梅	15	4	19
	下長淵	43	9	52		根ヶ布	空白地域		
	上長淵	16	1	17		師 岡	1	0	1
	友田町	12	—	12	第 9	新町末広	54	15	69
	千ヶ瀬	19	1	20	第 10	河 辺	84	41	125
第 3	吹 上	10	—	10	第 11	藤 橋	空白地域		
	野上①	11	—	11		今 井	52	29	81
	野上②	11	3	14	—	その他	82	40	122
	野上③	9	—	9					
	大門②	18	4	22					
	大門⑤	19	10	29					
	塩 船	空白地域							
	今 寺 ⁵	4	0	4	合計	全地区	726	215	941

² 地区委委員会の解散が決まっており、再建の必要がある。

³ 地区委委員会の解散が決まっており、再建の必要がある。

⁴ 沢井、御岳本町、御岳、御岳山。

⁵ 谷野、木野下を含む。

（６）市議会議員団の参画の強化

各市議会議員は、自らの地盤とする地域及び空白地域のブロック役員に就任し、ブロック内の地区委員会空白地域の解消、地区委員会の役員拡充、党員の拡大などを支援する。また、ブロック、地区委員会等と連携を取りながら、市政報告会等を積極的に実施する。

（７）女性部役員の補充・強化

全１１支会から１名ずつ役員を選任することを目指す。その他、地域に捉われず参加意欲のある方の役員就任を促す。

（８）青年部役員の補充・強化

全１１支会から１名ずつ役員を選任することを目指す。その他、地域に捉われず参加意欲のある方の役員就任を促す。また、広報委員会の役員となる青年部員を選任し、広報委員会の強化・再起動を支える。

（９）広報委員会の強化・再起動

無党派層や若年層へのアプローチを強化するため、総支部政調会長の責任の下、広報委員会の強化・再起動を図る。広報委員長の下に、市議会議員選出の副委員長、青年部選出の副委員長を各１名置く。

（１０）渉外委員会の強化・再起動

企業・団体対策を強化するため、総支部総務会長の責任の下、渉外委員会の強化・再起動を図る。渉外委員長の下に、市議会議員選出の副委員長、民間の副委員長を各１名置く。

3. 活動の再建 ―党勢拡大と再結束を―

青梅総支部の活動は、志ある多くの党員の無償の奉仕によって支えられている。しかし、長く続いたコロナ禍の影響もあり、研修や会合等は減少し、帰属意識も希薄化してしまっている。

目指すべきは、党員が心から愛着を持つことのできる場所である。一人ひとりが他の党員との交流を通じて活動を楽しみ、学びを得て、充実感を持つことができるような活動を行っていかなくてはならない。そのことが、党勢拡大や各級選挙における勝利にも結び付くはずである。

(1) 総支部の活動の充実

毎年春季に、総会及び懇親会を実施する。講師を招いた基調講演を実施するなど内容を充実させ、多くの党員の参加を呼び掛ける。また、毎年秋季に、研修視察を実施する。自民党の活動への理解を深めると共に、党員相互の親睦を図る機会とする。

その他、東京都第25選挙区支部が主催する行事等への積極的な参加を促すなど、意欲のある方が参加することのできる活動を増やしていく。

(2) 地区委員会の活動の充実

各地区委員会においても、年に1度、総会及び懇親会を実施する。また、前節で述べた組織の強化を裏付けとして、研修視察や懇親会の開催など、活動の活発化を図る。

その他、総支部や東京都第25選挙区支部が主催する行事等への積極的な参加を促すなど、意欲のある方が参加することのできる活動を増やしていく。

(3) 女性部の活動の充実・部員の拡大

毎年夏季に、総会及び懇親会を行う。その他、前節で述べた組織の強化を裏付けとして、研修視察や懇親会の開催など、活動の活発化を図る。

また、総支部・地区委員会の活動や、東京都第25選挙区支部主催の「新緑のつどい」など、各種行事等への積極的な参加を促す。

(4) 青年部の活動の充実・部員の拡大

毎年夏季に、総会及び懇親会を行う。その他、前節で述べた組織の強化を裏付けとして、研修視察や懇親会の開催など、活動の活発化を図る。

また、総支部・地区委員会の活動や、東京都第25選挙区支部主催の「新年会」など、各種行事等への積極的な参加を促す。

（５）無党派層や若年層への浸透

王道の国民政党である自民党にとって、既存の組織を中心とした「地に足の着いた活動」が重要であることは論を俟たない。しかし一方で、無党派層の増加や保守系野党の台頭、停滞感からくる既存政治への反発など、既存の組織活動だけでは対処しきれない要因により、東京都議会議員選挙、青梅市長選挙で苦杯を嘗めたことを忘れてはならない。無党派層や若年層への浸透に、徹底的に取り組んでいくべきである。そのために、前節で述べた広報委員会の強化・再起動を行い、青年部の協力の下で、「空中戦」に努めていく。

具体的には、①年間2回を目安として、総支部主催による遊説・駅頭を実施する。②年間1回を目安として、総支部の活動が市政に寄与していることを示す「総支部広報」を発行するといった活動を行う。

（６）企業・団体への浸透

市政レベル以下の選挙において、これまで必ずしも企業・団体の支援が受けられていなかったことを反省しなくてはならない。前節で述べた渉外委員会の強化・再起動を行い、企業・団体への浸透を一層強化したい。

具体的には、①「青梅総支部各種団体協議会」を設立し、企業・団体の登録を促す。②協議会員である企業・団体に対し、総支部の行事への参加や選挙運動への支援を呼びかけるといった活動を行う。

（７）市議会議員団のリーダーシップの発揮

各市議会議員は、総支部の役員あるいはブロック役員として、これまで述べてきた組織の再生と活動の再建にリーダーシップを発揮する。

4. 選挙における勝利を目指して―都議会議員・市長の奪還を―

私たちは東京都議会議員選挙、青梅市長選挙の反省も踏まえ、再生した総支部の組織の下、各級選挙における候補者の勝利を全力で実現していかなくてはならない。

(1) 当面の目標

当面の目標は、以下の選挙における確実な勝利（市議会議員選挙においては、自民党公認・推薦候補者による過半数の議席の獲得）である。

選挙の種類	想定される時期	立候補予定者
衆議院議員選挙	令和6年中	井上信治
東京都議会議員選挙	令和7年夏	未定
青梅市議会議員選挙	令和9年春	未定
青梅市長選挙	令和9年秋	未定

(2) 立候補予定者の早急な確定と政治活動の支援

東京都議会議員選挙、青梅市長選挙に勝利するためには、地道な政治活動をいち早く開始することが不可欠である。両選挙の立候補予定者を、早急に確定させることとする。

その上で、まずは青梅総支部の絆と資源を最大限活用し、着実に足元を固める必要がある。また、駅頭や挨拶回りなど、一般有権者に向けた地道な政治活動を早期から徹底して行い、市民の理解を得ていくことも重要である。総支部は、本プランに示した改革を確実に実行し、一致結束して組織的に立候補予定者の政治活動を支援していくこととする。

(3) 組織の改革、活動の再建の徹底

各級選挙における勝利のためにも、これまで述べてきた組織の改革、活動の再建に着実に取り組む。

5. 不断の反省と改革 ―実効性の担保と、更なる向上のために―

以上の取組みについて、実施状況を確認し、必要に応じて方法や目標の修正を図っていくため、年に1度、青梅総支部再生プロジェクトチームを開催することとする。

以上

青梅総支部再生プロジェクトチーム

Ⅰ 構 成 員

座 長 鴨居 孝泰

委 員 原嶋 和利、市川 芳幸、岩浪 武夫、久保 隆一、
本田 了子、山崎千賀子、小山 洋一、中野 芳則

Ⅱ 開催実績

12 月 9 日 地区委員長会議で設立を承認

1 月 25 日 第 1 回会合

2 月 8 日 第 2 回会合

3 月 7 日 井上信治支部長との意見交換会

3 月 22 日 第 3 回会合

6 月 13 日 第 4 回会合

Ⅲ 地区委員会ヒアリング

① 3 月 30 日 三田西部地区

金井地区委員長、靱矢新地区委員長、小澤地区顧問、原嶋会計、
ほか党員の皆さま 3 名、井上、鴨居

② 4 月 12 日 大門第 2、第 5 地区

川鍋大門第 2 地区委員長、吉澤大門第 5 地区委員長、鴨居、本田、寺島

③ 4 月 16 日 第一支会

荒井天ヶ瀬地区委員長、山中勝沼地区委員長、ほか党員の皆さま 11 名、
鴨居、岩浪、中野

④ 4 月 25 日 第二支会、河辺地区

大谷上長淵地区委員長、中丸下長淵地区委員長、高橋駒木地区委員長、
木野友田地区委員長、柳川千ヶ瀬地区委員長代理、
ほか党員の皆さま 13 名、鴨居、市川、久保(隆)、久保(富)、阿部、山崎(哲)

⑤ 5 月 10 日 成木地区

党員の皆さま 12 名、鴨居、市川、山田(敏)

⑥ 5 月 26 日 新町

高野地区委員長、ほか党員の皆さま 19 名、鴨居、山田(紀)

⑦ 6 月 6 日 黒沢・富岡

山崎黒沢地区委員長、島田富岡地区委員長、鴨居、山崎(千)、山崎(勝)

	組織の改革	活動の再建
総支部	総支部役員のリーダーシップの発揮 ▷ 支部長は、役員等との意思疎通強化、国～都～市政の連携強化を図る ▷ 幹事長を中心に、総支部・地区委で党員の拡大を図る ▷ 政調会長を中心に、無党派層や若年層への浸透を図る ▷ 総務会長を中心に、企業・各種団体への浸透を図る 支会毎の「ブロック」の創設 ▷ 全11支会の地域に地区委員会を統括する「ブロック」を創設 ▷ ブロック役員の選任（市議会議員は必ず役員に就任）を進め、好事例の広域的な横展開や地区委員長の負担軽減を図る 党員の拡大 ▷ 「ブロック」単位で、地区委員会空白地域の解消に努める ▷ 新規創設した地区委員会においては、役員増強・党員獲得を図る 準党員制度の活用 ▷ 準党員の活用、「サポーター募集」など親しみやすいフレーズの活用	活動の充実 ▷ 毎年春季に、講師による基調講演を含む総会 及び 懇親会を行う ▷ 毎年秋季に、研修視察を行う ▷ その他、25区の行事等への積極的な参加を促す等
市議団	地元の「ブロック」及び空白区の「ブロック」では必ず役員を務める	▷ ブロック運営・地区委空白地域の解消に、主導的な役割を果たす ▷ 各地区委員会の党員拡大に、主導的な役割を果たす
地区委員会	役員の補充・強化（ブロック主導） ▷ ブロック役員による全地区委員長のヒアリングを実施 ▷ 各地区委員会に5名程度の役員を置くことを目標とする ▷ 役員交代の希望など、個別の事情にもブロック役員がきめ細かく対応 党員の拡大 ▷ 各地区委員会で党員増を目指す（令和6年目標1,000人）	活動の充実 ▷ 地区委員会の総会 及び 懇親会を毎年実施することを目指す ▷ 研修視察等や懇親会の活発化を図る ▷ その他、総支部・25区の行事等への積極的な参加を促す等
女性部	役員の補充・強化 / 部員の拡大 ▷ 全11支会から1名ずつ以上の役員選任を目指す ▷ その他、地域に捉われず参加意欲のある方の役員就任を促す	活動の充実 ▷ 毎年夏季に、総会 及び 懇親会を行う ▷ その他、25区「新緑のつどい」等への積極的な参加を促す等
青年部	役員の補充・強化 / 部員の拡大 ▷ 全11支会から1名ずつ以上の役員選任を目指す ▷ その他、地域に捉われず参加意欲のある方の役員就任を促す 広報委員会の行う活動に対する支援体制の確保	活動の充実 ▷ 毎年夏季に、総会 及び 懇親会を行う ▷ その他、25区「新年会」等への積極的な参加を促す等
広報委	政調会長・広報委員長以下、役員の補充・強化 ▷ 青年部メンバーも取り込んで、広報委員会の役員体制を強化する	無党派層や若年層への浸透 ▷ 総支部主催による遊説・駅頭の企画 ▷ 総支部広報の発行
渉外委	総務会長・渉外委員長以下、役員の補充・強化 ▷ 民間メンバーも取り込んで、渉外委員会の役員体制を強化する	企業・団体への浸透 ▷ 「青梅総支部各種団体協議会」の設立

※ 年に1度、再生プロジェクトチームを開催し実施状況をフォローアップ。適宜、目標や戦略の修正を行う。